

## 株式会社浅沼醤油店

平成  
27  
年度

事業計画名 「地域資源」や「醸造技術」を活用した調味料の多品種展開

## DATA

代表者名 代表取締役 浅沼 宏一 設立 1914年9月

実施場所 〒020-0402 岩手県盛岡市黒川11-59-4  
TEL.019-622-2580 FAX.019-622-2586  
E-mail . koichi@asanumashoyu.co.jp

資本金 1,000万円 従業員数 20名

事業内容 味噌、醤油、調味料、清涼飲料水などの製造、販売

U R L <https://www.asanumashoyu.co.jp/>

## 生産能力向上を目指し、自動充填システムを導入

従来、当社が保有していた半自動充填機は、充填に1人、計量に1人、キャップ取り付けに1人の合計3人が充填作業に必要であり、充填能力は3.3本/分が限界であった。今後、生産能力の向上を図り、売り上げ増強のためには①小型容器への対応も可能なものであること、②2液の同時充填が可能なること、③二重構造のハクリボトルへの対応が可能なもの、④充填品の切り替えにかかる作業時間が短いことの4点に対応する充填機が必要なることから、少量多品種充填システムを導入した。新たに導入した充填システムは、ボトルの搬送設置、充填、キャップの取り付けという一連の流れを自動で行うものである。



新たに導入した充填システム。ボトルの供給からキャップ取り付けまで自動で行う。

また、この新システムを有効に活用するため、システム導入と並行し、営業の強化策として外部講師を招聘した勉強会の開催や商談シートの作成を行った。加えてギフト用調味料「くらシリーズ」の開発や減塩対策醤油「いわて健民」などの商品化にも取り組むことができた。

## 生産能力が約4倍に向上。少量生産にも威力を発揮

新たに導入した充填システムの充填能力は、2液充填タイプで13.8本(200ml) /分とこれまでの3.3本/分から大幅に向上している。この充填機に必要な人員は、原料、ボトル、キャップの補充、充填が終わった製品の取り出しなど2人だけで可能となり、1人の省力化につながっている。併せてこの新設備は、小型ボトルやハクリボトルへの充填も可能であり、消費者ニーズに合わせたさまざまな形態の製品を製造可能としている。

また、新設備は充填条件をコンピューターにインプットし、充填品の切り替え作業時間が短縮されるよ



これまで3人で行っていた充填作業が2人で済む。

う工夫し、1,000本程度の少量生産でも新設備を活用し、高速充填することが可能となっている。

## 地域資源を生かした、多品種小ロットの製品づくり

少量多品種充填システムの導入により、充填時間の短縮及び人員の減少による生産性の向上が実現した。これは効率的な量産につながると同時にこれまで受け入れが難しかった少量受注にも対応可能となっている。

当社は近年、エゴマの搾りかすや採卵後のわかさぎ、鮑の肝など、これまで廃棄されていた食材や地域資源を活かした多品種小ロットの製品開発に取り組んでいる。地域の生産者や消費者の生活に根付いた商品は、一時の流行に影響されにくく商品寿命も長く、価格競争にも陥りにくい。さらに、地域資源に付加価値をつけることにより、これら地域の農林漁業者の所得向上

「2016年に発売した醤油『いわて健民』は、県内の醤油屋さんの生揚げ醤油をブレンドして作った商品。同業他社と競争するのではなく、ともに岩手の醸造業を盛り上げていきたい」と話す、代表取締役の浅沼宏一さん。



に貢献すると考えている。新設備の導入により得られた時間的、人的余力を新たな商品開発へ活かし、増益と安定経営の継続へとつなげていきたい。

## 新たな充填機の導入により、生産能力が大幅に向上

生産能力向上のボトルネックとなっていた充填工程に、新たな自動充填システムを導入。生産能力が約4倍に大きく向上。また、新システムは少量生産や小型ボトル、特殊ボトルの充填にも対応。当社の進める、地域資源を生かした商品開発にも大きく貢献するものとなった。

## 独自性のある製品展開を目指して

当社は大正3年の創業以来、100年以上にわたり味噌、醤油の製造から販売まで一貫して手がけている。

近年は顧客ニーズの多様化に合わせ、発酵技術や製造設備を活かした各種調味料や清涼飲料水、菓子原料など幅広く生産している。

現在、当社の売り上げの約8割はOEM製品の売り上げが占めており、今後利益の向上を図るためには、独自性のある製品の開発、製造が不可欠である。また、各種商品の流行サイクルが短いことや消費者の好みに合わせた商品を継続して作っていくためには、多品種小ロット商品の展開も必要である。しかし、当社が現在保有する設備と人員ではこの実現が難しいことから本事業により、多品種展開を視野に入れた新たな充填システムを導入し、効率的な生産体制の構築に取り組むこととした。



長年培ってきた醸造技術を活かし、ユーザーの要望や地域資源を取り入れたさまざまな商品を製造、販売している。